

【キューバ医療情報 2月】

2月6日

キューバはどのように新型コロナウイルス変異株を検出するか

Granma

新型コロナウイルス変異株はゲノムシーケンス技術によって検出される。特定の機器を使用しサンプルの処理と分析に数日を要する、非常に複雑で費用のかかる手順である。ペドロコウリ熱帯医学研究所 (IPK)はこの技術を備えており、流行が始まって以来、この手順を開発してきた。

2月7日

キューバで新生児の前例のない手術後、少女は無事である

Granma

彼女はキューバでこれまでに行われたことのない困難な手術で生き延びた。正常な呼吸を妨げ、命の危険にさらしていた、縦隔にできた腫瘍が取り除かれた。

ビジャクララの小児病院で、中部地域の新生児外科専門医とハバナの心臓血管外科専門医の主導の下、混成チームで実施された。前縦隔に奇形腫を認め、検査では優位な縦隔拡大が指摘され、気道の閉塞を引き起こしており、非常に危険な状態であった。母親は娘を救命した外科チームに大変感謝している。

2月7日

アブダラは子供たちの安全と免疫原性を示す

Granma

国立医薬品医療機器管理センター (CECMED) は、臨床試験の結果により 2 歳から 18 歳までの小児グループにおける新型コロナウイルスワクチンのアブダラの緊急使用の承認を決定した。

遺伝子工学・バイオテクノロジーセンター (CIGB) によって開発されたアブダラは臨床試験で重篤な有害事象が報告されていない。

臨床試験では 500 人以上の子供たちに接種され、高力価の IgG 抗 RBD 抗体を誘導し、コロナウイルスに中和活性を示し、有害事象の 80% 以上が軽度で、ほとんどが注射部位であり、局所的であった。他の指標は成人のデータと同等であり、小児期において安全で免疫原性がある結果をもたらした。